

テーマ：「自然」、「人工」という言葉から連想されるイメージを構成してください。

今回、デザイン構成部門の課題テーマは、「自然」「人工」という言葉から連想されるイメージを構成するというものでした。ご応募いただきました皆さま、ありがとうございました。そして、受賞された皆さま、おめでとうございます。

第2回目となる今回も、与えられた形体(構成要素)を用いてテーマとなるイメージを表現するイメージ構成課題でしたがいかがでしたでしょうか。「自然」「人工」というイメージは、普段の生活で常に触れているイメージだと思います。自然と聞くと、例えば植物や動物を思い浮かべる人もいるでしょうか。人工と聞くと、車や建築を思い浮かべる人もいるでしょうか。しかし、それらを具象的な形体を使用せずに表現しようとする、なかなか思い通りにいかないと感じた人も多かったのではないかと思います。イメージ構成では、誰が見ても設定されたテーマを自然と連想するような表現を行う必要があります。そのためにはまず、「自然」「人工」のイメージをきちんと分析し、どのような形や色を使用するのが望ましいかを検討することが大切です。そして、常に「客観的な視点」を持ちながら制作することが重要です。難しく感じる時は周りの人に意見を求めてみるのも良いかもしれません。制作の過程の中で「自分の思い描くイメージが的確に表現できているか」、「誰が見ても同じイメージを連想するか」を繰り返し検証するよう心がけましょう。

入賞作品について金賞の作品は、有機的な曲線をメインで使用した構成と、直線をメインで使用した構成の対比が特徴的です。使用している形体の特徴により「自然」と「人工」の違いを上手く表現できていると思います。また、色の三属性を幅広く活用でき、メリハリのついた配色が気持ち良いです。「自然」の構成が少し具体的な風景を連想させてしまうため、もっと抽象的な構成にしてもよかったかもしれません。銀賞の作品は、こちらも曲線をメインとした構成と、直線をメインにした構成の対比が特徴的です。使用している構成要素が多いため、画面全体が少し煩雑に感じます。構成検討の段階で不要な要素を見極めながら、全体のまとまりを意識して構成を行ってみましょう。また、「自然」「人工」それぞれ緑・青系統の配色と、赤・紫系統でまとめられており、配色による対比もわかりやすいです。一方で、同じようなトーン色が多いため、使用する色の三属性の幅を広げると、よりイメージも明瞭になるかと思います。入選された作品は、「自然」「人工」のイメージの表現が不明瞭なものが見られました。どちらか一方は良くても、どちらかがわかりにくい、という課題も見られたのが勿体なく感じます。具象的な形体を使用せずイメージを表現する場合、描く線のフォルムや、配色ひとつで印象を左右する必要があります。どのような形に自然を感じ、どのような色に人工を感じるか、普段何気なく見ている身の回りのモノを良く観

察し、課題制作に落とし込むようにしてみましょう。

デザイン構成課題は、あらゆるデザインを行っていくうえでの基礎力を磨くことができる課題です。基礎が磨かれると、デザインの可能性が広がります。これからデザインを頑張ろうという人も、自分の力をより磨きたい、高めたいという人も、常に基礎と向き合いながらデザインを楽しんでいただけたらと思います。

山口芸術短期大学 客員准教授 三宅 宏明